

谷地の城主白鳥十郎討る事

一其地少なり而里北の方谷地と云所の城主に白鳥十郎藤原長尚又長久とて貪欲無道此城主有り然るに長尚思ひ多く今中此諸士義光の威勢に恐れ彼に随ふ者多し何れは長尚に於て思ひもよるにいふもして義光を亡し山形を押領せんとはうを以て天下の武將織田信長公に使者を以て青鷹一居駿馬一疋を献して其に出羽に抽家使斯波重頼より以來代々家上の主とて由言上は信長公にも遠國の貢とされハ左もあらんと思召付るにや速に

申込状給よりけり茲に又限れ多く義光公傳へずき易かりに思召されハ家臣志村九郎左衛門を使者とて白府の鷹一聯月山鍛の鎗百筋駿馬三疋信長公へ献し彼の白鳥の虚言をわきまさんため里代お孫は系圖を云説は偽なり相かり戦ふの御通路皆由なり故に後路より上着して山本孝之郎宅に旅宿し其趣を達し献上^物義光系圖を差上り信長公に説いて遠より此使者大異なりとて家康公を以て事礼子細を九郎左衛門に申召代々の系圖歴説ありて扱義光信長降すべき人に仰けしとて即ち回簡に自筆